

ニュースレター

2020年3月  
第24号

# だんだん

## ごあいさつ

隠岐広域連合立 隠岐島前病院  
<http://okidozenhospital.com/>

みなさんこんにちは。

平成30年11月より開設した「包括ケア病床」をご存じですか？

「包括ケア病床」とは、治療や検査が終了した後、すぐに自宅や施設へ戻る事に不安を感じる患者様が、もうしばらく入院生活を継続し、医療・看護・リハビリを行いながら、退院へ向けて「準備を整える」ための病床です。

- ・急性期治療を終え、もう少し経過観察、もしくは生活準備が必要な方
- ・慣れない医療行為やオムツ交換などの介護の練習が必要な方
- ・在宅医療中、介護者の休養が必要になった方
- ・在宅医療中、リハビリを実施した方が望ましい方

上記のような患者様の「ほぼ在宅、時々入院」を応援する病床です。現在、島前病院の病棟は一般12床、療養24床、包括ケア病床8床があります。小児から高齢の方の様々な疾患に対して、幅広い知識や技術を求められる事に難しさを感じますが、それ以上に患者様やご家族との関わりを持てる場面が多く、やりがいを持って勤務しています。

退院後の生活を見据えた退院支援や、退院後の様子を伺うための退院後訪問を行ったり、季節毎のレクリエーションではいつも病棟に笑顔があふれています。

今後も「笑顔で安心、安全第一」を目標に、患者様に寄り添った看護を目指していきます。入院のことや病棟のことについてお気づきの点、心配な事などございましたら遠慮なくお尋ね下さい。

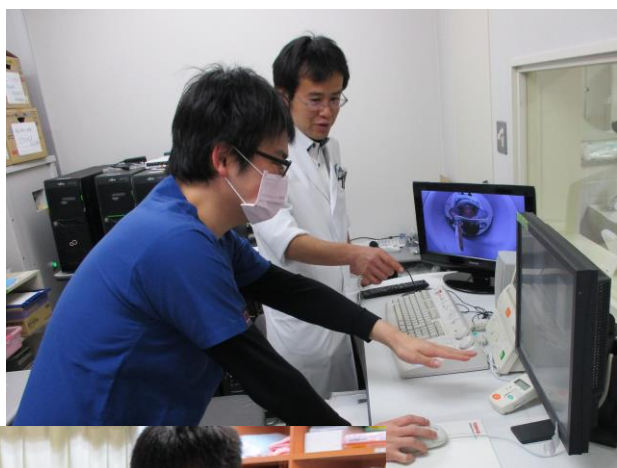
三角（病棟師長）

# お世話になりました

春が近づき、別れの季節となりました。  
この度、当院を離れることになりました  
職員からのメッセージをご紹介します。



## 濱崎 雅文 (医師)



隠岐島前病院、それから知夫村  
診療所と、4年間の島前内勤務を  
この3月で終えることになりました。

病院のスタッフだけでなく、患者  
さん、地域の方々に優しく見守られ  
ながら、気付けばこの島で30歳の  
大台に乗り上げました。



西ノ島での思い出は数えきれませんが、おいしい  
料理やきれいな海など、きっと  
これからもずっと忘れられないと  
思えるものばかりでした。



今後も医師として自分を  
磨きつつ、いつかまた、  
一回り大きくなって皆さんに  
お会いできるように頑張りた  
いと思います。

4年間大変お世話になり、  
ありがとうございました。  
くれぐれもお体に気をつけて、  
いつまでも、お元気でいて  
下さい。





## 迫 正明 (医師)

短い間でしたが、大変お世話になりました。

白石裕子先生から引き継いだ外来で、引き続き診させて頂いた患者さんが多かったのですが、ご期待に添えなかった部分も、多分にあったのではないかと思います。

ある時には、嫌だと言われるのに「薬を飲んで下さい」と処方を出し、またある時には、本当は検査をして欲しいのに「今のところは必要ありません」と答えたりと、不快な思いをされた方も、たくさんおられたと思います。

それでも常に住民の皆さんのため、西ノ島の医療のため、日本全体のためを思って、自分なりに精一杯勤めさせて頂きました。



1年という期間はあまりに短く、やっと慣れてきたと思った矢先に転勤になってしまうのは大変残念でした。ただ、これまで感じたことがないほど、とても濃密な時間を過ごさせて頂きました。

ここでの生活はとても楽しかったです。

皆さん、ありがとうございました。



## 迫 友紀子 (医師)



この3月末に転勤することになりました。

1年間という短い勤務期間で、本当にあっという間でしたが、ここにしかない、ここでしかできない医療を日々実感しながら勤務するという、とても素晴らしい1年になりました。

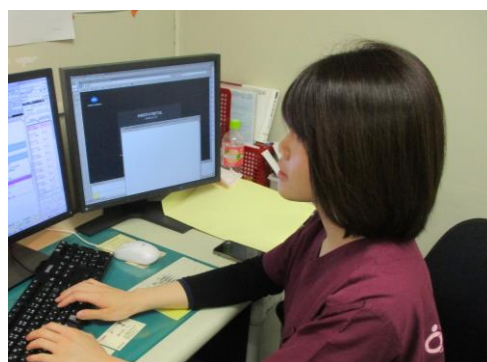


この1年間、島前病院で働けたことが、これからの自分の財産になると思います。

私がこの島前病院で、特に気に入っていたのは、晴れた日の病室やリハビリ室へ通じる渡り廊下から見えるきれいな海でした。

この景色は本当に最高のものでした。

患者さま、住民の皆さまにも大変お世話になりました。本当にありがとうございました。





## 室原 誉怜 (医師)



こんにちは。8月から島前病院で勤務していた室原と申します。

自分が診察させて頂いた方も、そうでない方もおられると思いますが、3月で勤務が終了になるので、この場を借りてご挨拶させて頂こうと思います。



8ヶ月と短い期間でしたが、島前地域での診療はとても濃厚なものでした。一番楽しかったのは僕たち医療者と、皆さんとの距離が近いことでした。

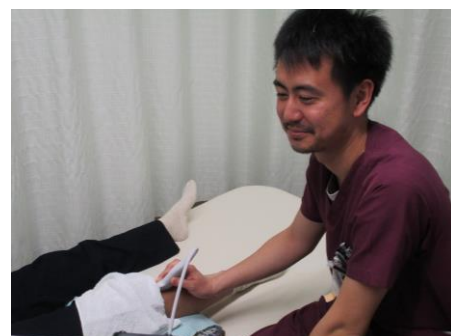
皆で同じ社会を生きていて、お互いに支えあいながら生活している。そんな根本的なことを再認識できました。

自分で言うのもなんですが、仕事の性質上、医者は特別扱いされがちな気がします。

ですが、僕は皆さんがいなければ満足な生活もできませんでした。「お互いさま」。これは都会ではなかなか実感できないことです。

病院内外問わず、皆さんと交わす一語一句が自分の血肉となりました。

日本全国の離島僻地を見渡しても、島前地域の医療は充実していると思います。ですが、そうではない地域もまだ多くあります。将来はそう



いった地域の人々に医療を届けることが自分の目標です。まだまだ道半ばですが、この8ヶ月で皆さんから学んだ事を胸に頑張っていきます。

改めて、短い期間でしたが、本当にありがとうございました。



## ありがとうございます

入院中の患者さんの多くが、病室でポータブルトイレを使用されています。ポータブルトイレの横にトイレットペーパーをそのまま置いて使用していましたが、取りにくく、また見た目もあまり良くない・・・と、ポータブルトイレの横に設置できるレットペーパー置きを灘 需さんが



作成し、寄付をして下さいました。

元々、灘さんのお父さんの入院中に、お父さんのために作成した物でしたが、とても使い勝手が良く、計4つも作成して頂きました。灘さん、ありがとうございました。

## おわりに

今回は、当院を離れることになりました先生方のさよならメッセージを記載致しました。それぞれの先生に沢山の思い出があり、名残惜しい気持ちでいっぱいですが、当院で勤務された時間の中で、何か1つでも新しい病院での診療に役立てるものを感じて頂けていたらいいな、と思っています。

また、来年度以降も医師をはじめ、看護師、理学・作業療法士など、様々な職種が就職や研修で来島する予定です。この病院、この島へ来て良かったと思って頂けるよう、スタッフが一丸となって取り組んで参りたいと思っています。

研修中は住民の皆さまにもご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、何卒温かい目でご協力を頂ければ幸いです。

今回も最後まで読んで頂きありがとうございました。

**隠岐広域連合立 隠岐島前病院**

〒648-0303

島根県隠岐郡西ノ島大字美田 2071-1

TEL 08514-7-8211

FAX 08514-7-8702

MAIL (看護部)

dz-kaigo@sx.miracle.ne.jp